

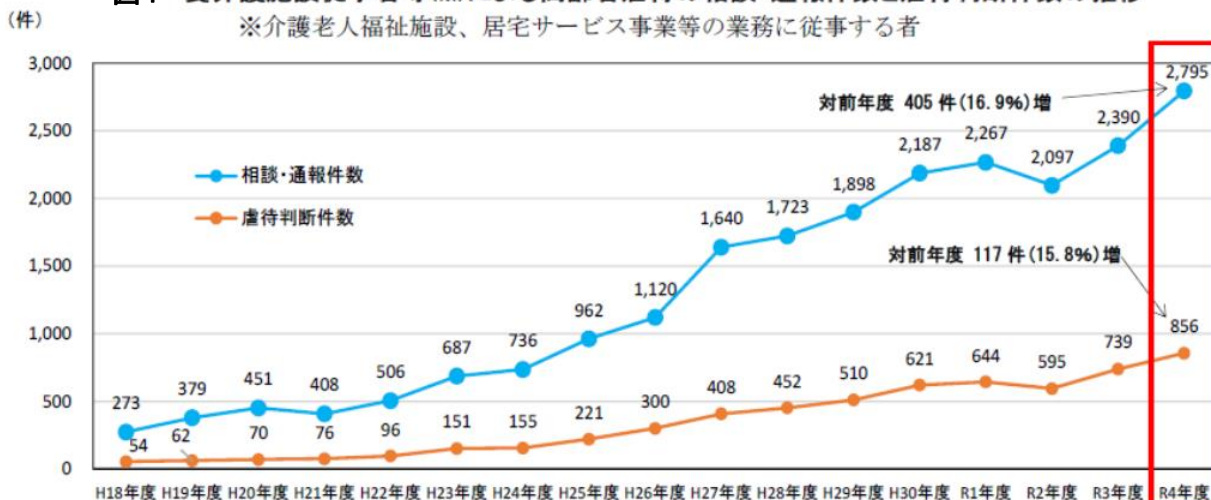


### 職員からの患者や利用者への虐待防止

厚生労働省の調査結果では、養介護施設従業者等による高齢者虐待の相談・通報件数と虐待判断件数が年々増加しています（図1）。

図1 養介護施設従事者等(※)による高齢者虐待の相談・通報件数と虐待判断件数の推移

※介護老人福祉施設、居宅サービス事業等の業務に従事する者



出典：厚生労働省 令和4年度「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づく対応状況等に関する調査結果

障害者施設・介護施設等の運営基準の改正で、令和3年～4年にかけて、虐待防止の研修が義務化されました。※施設入所等障害者には施設等の種類（障害者施設等、児童養護施設等、養介護施設等）に応じてこの法律、児童福祉法又は高齢者虐待防止法が、それぞれに適用されます。

虐待には、「①身体的虐待」「②介護・世話の放棄・放任」「③心理的虐待」「④性的虐待」「⑤経済的虐待」があります。虐待の具体例の一つとして、「ナースコールを使用させない、手の届かないところに置く」「トイレを使用できるのに、職員の都合を優先し、本人の意思や状態を無視しておむつを使う」などがあります。医療機関でも、障害者や高齢者が入院することがあります。医療安全や医療倫理の研修の中に組み込んで、虐待防止についての職員の意識を高めましょう。なお、虐待を受けたと思われる者を発見した際は、管理者のみではなく施設に従事している職員一人ひとりにも通報義務があります。各施設の運営基準に沿って虐待防止に取り組んでください。

### ポイント

- ☐ 高齢者虐待防止の基本

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/1.pdf>

- ☐ 養介護施設従事者等による虐待への対応

[https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/3\\_1.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/3_1.pdf)

- ☐ 障害者虐待防止法の理解と対応

<https://www.mhlw.go.jp/content/000686501.pdf>

**Q** 1月2日に、羽田空港で、海上保安庁機(以下、海保機)と旅客機が衝突する事故がありました。私たちが、この事故から医療事故防止の観点で学べることはありますか？

**A** この事故については、その原因や要因はまだ調査中ですから断定的に述べることはできません。しかし、刻々と状況が変わり、時間切迫の中で、立場の異なる複数の人たちがコミュニケーションを取りながら業務を進めているという点では、航空機の運航と医療現場は類似した状況にあります。医療事故防止についても、下記のような点(あくまで、事故後1週間ほどの間の報道による視点です)が参考となると考えられます。医療現場の状況を考えつつ、気になる点について自由に話し合うことは、職員の安全への意識を高めることに役立ちます。

### ①コミュニケーションエラー

航空管制官と海保機の間では、メンタルモデルの違いによるコミュニケーションエラーが生じ、復唱したが認識の食い違いが修正されなかった。医療においても、医師が電話で「半筒(ハントウ)」と伝え、看護師が「3筒(サントウ)」と聞き取り、復唱したものの互いに間違いに気が付かず注射薬が3アンプル投与された事故が発生している。

### ②見逃し

旅客機の機長や管制官は、誤進入していた海保機に気づけなかった。暗さや、周りに多くのライトがある等の条件下、海保機が滑走路上に停止しているかを意識して見なければ気づけない可能性がある。医療現場でも、アンプルに赤字で書かれた「禁注射」の文字を見逃したなどの事例がある。

### ③ハリーアップ症候群

滑走路への誤進入インシデントは、これまでも繰り返し発生しており、今回の事例と類似した重大インシデント事例※<sup>1</sup>では、ハリーアップ症候群(作業や業務を急いだり、急ぐ必要があると感じると、操縦士の人的能力が低下すること)が要因の一つとなっているとされている。医療現場でも、急ぎや焦りがヒューマンエラーの要因となることが指摘されている。

※<sup>1</sup> 他の航空機が使用中の滑走路から離陸した重大インシデント事例のリンク先

[https://www.mlit.go.jp/jsb/tansuikierka.bulu/jstcdgsts/jstcdgsts\\_Nb30/Nb30.pdf/jstcdiNb30\\_03-5.pdf](https://www.mlit.go.jp/jsb/tansuikierka.bulu/jstcdgsts/jstcdgsts_Nb30/Nb30.pdf/jstcdiNb30_03-5.pdf)

### ④緊急時訓練の重要性

客室乗務員の的確な判断・誘導により旅客機の乗客の避難が速やかに行われた。客室乗務員には緊急時対応マニュアルに沿ったシミュレーション訓練が年に1回以上、全員対象に行われている。稀にしか起きないからこそ、訓練が重要である。医療機関でも火災、地震、患者急変等を想定した実地訓練(場合によっては患者も参加)を定期的を実施し、対応力を向上させるとともにマニュアルの見直しにも繋げている施設がある。

憶測による事故関係者への批判や責任追及の発言は慎まなければなりませんが、他業界の事例や取り組みから学ぶことは大変有用です。運輸安全委員会のホームページもぜひ参考にしてください(国土交通省 運輸安全委員会 <https://www.mlit.go.jp/jtsb/>)。

#### <情報提供元>

東京海上日動メディカルサービス株式会社  
メディカルリスクマネジメント室

<http://tms.mrmhsp.net/>

- ◆許可なく、転送・転載・複写はご遠慮願います。
- ◆作成時の情報で掲載しています。最新の情報をご確認ください。